

オオハンゴンソウの特徴



鮫角灯台周辺のオオハンゴンソウ



オオハンゴンソウはキク科の多年草で、舌状の花びらを10～14枚持つ、カナダからアメリカ東部が原産だが、観賞用として植えられたものが野生化した。中部地方以北のやや寒い地方に帰化しており、各地の川岸や草原などに大群落が見られる。種差海岸ではマリエント周辺から種差周辺まで至る所で群落が見られる。花の最盛期は7月～8月だが、10月頃まで咲いている。頭花は直径9～12cmほどで、舌状花が一行に並んだ一重咲き。高さは2～3m近くも有り、上部で枝分かれして先端に鮮やかな黄色の花が咲く。花数は、2m前後に成長したもので10～23個、茎も太く3m前後に成長したものでは最高53個の花がついていた。地下部の大きさと花の数には正の相関ある。つまり大きさに比例して花の数が増えている。開花日数は35日間・種差海岸の最盛期は8月10日前後。





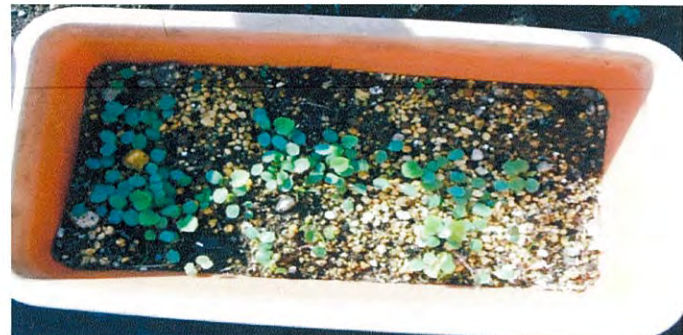
8月30日、花びらがあるうちに筒状花をばらし種子らしき物を数えてみた。



250個の種子



発芽するか種子を蒔いてみた (8月30日)



種子を蒔いてから一月後 (9月27日) に撮影したオオハンゴンソウ・(発芽率35.7%)



種子から発芽したオオハンゴンソウ



高さ 2 c m 弱のオオハンゴンソウ



種子から発芽したオオハンゴンソウは群落を作っていることが多い



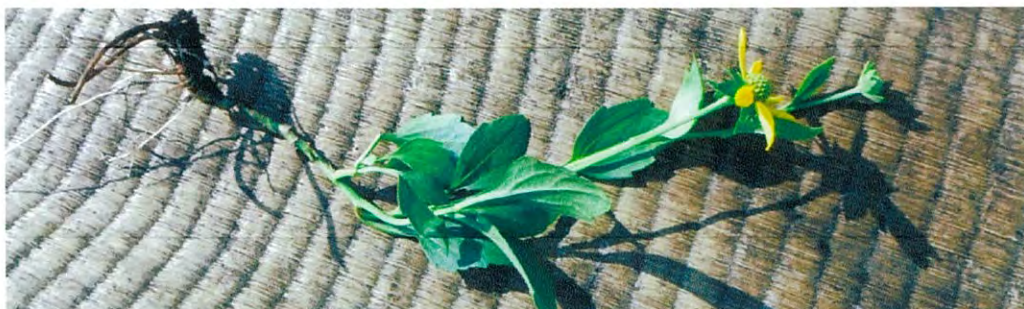
種子から 1 0 c m 前後に生長したオオハンゴンソウ



種子から 20 cm 前後に生長したオオハンゴンソウ



種子から 30 cm 前後に生長したオオハンゴンソウ



高さ 30 cm のオオハンゴンソウでも花を咲かせる

種子は4月下旬から5月上旬ごろに発芽し、生長を開始する。種子の発芽は9月上旬頃まで発芽する。抜いても抜いても、次から次へと埋土種子が尽きるまで発芽すると思われる。大きさは1 m前後になり、花をつけるが、数は少ない。小さいもので30 cmのオオハンゴンソウが花を咲かせた。1~3 mになるオオハンゴンソウは地下部の大きな根株から芽を出し、生長したオオハンゴンソウで花芽も20から40個付ける。



小さな根株から発芽したオオハンゴンソウ



親指ほどの大きさの根株でも2~5本芽を出し生長するオオハンゴンソウ



抜き取り時、折れたり、切れたり、取り残した小さな根株から発芽したオオハンゴンソウ

ボランティアで駆除作業が行われた釜の口（4-2-1）に特に多く見られた。この様に根株を残すと駆除効果は殆んどない事が分かった。



抜き取り時、折れたり、切れたり、取り残した小さな根株から発芽したオオハンゴンソウ



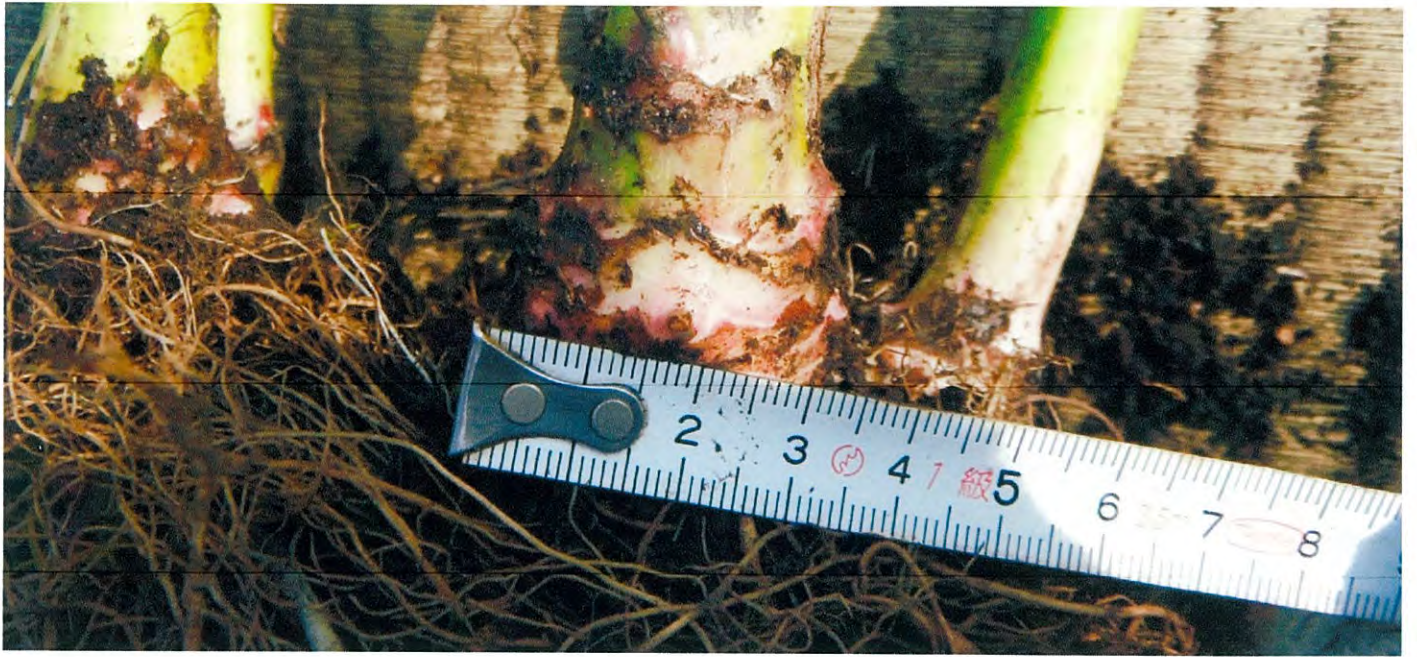
大きな地下部・一度も駆除作業が行われていない所に多く見られる



大きな地下部から26本の芽を出したオオハンゴンソウ・(右写真は20本の芽を出した)



大きな地下部・一度も駆除作業が行われていない所に多く見られる



太くて大きい地下部・直径3 cm



太くて大きい地下部



太くて大きい地下部・直径4 cm



太くて大きい地下部



太くて大きい地下部

この様な大きな茎と地下部のオオハンゴンソウは、急斜面や線路脇など殆んど人の手が入らず、放置されていた所に群落していた。根元には埋土種子が群落して、発芽していることが多い。一掴み100本も抜き取る事が出来た群落も有った。





太くて大きい地下部



大きい地下部・直径20cm



直径4cmの茎



8月になると、根元から新たに芽を出して生長するオオハンゴンソウ



刈払いしたオオハンゴンソウは根元から新たに芽を出し生長する



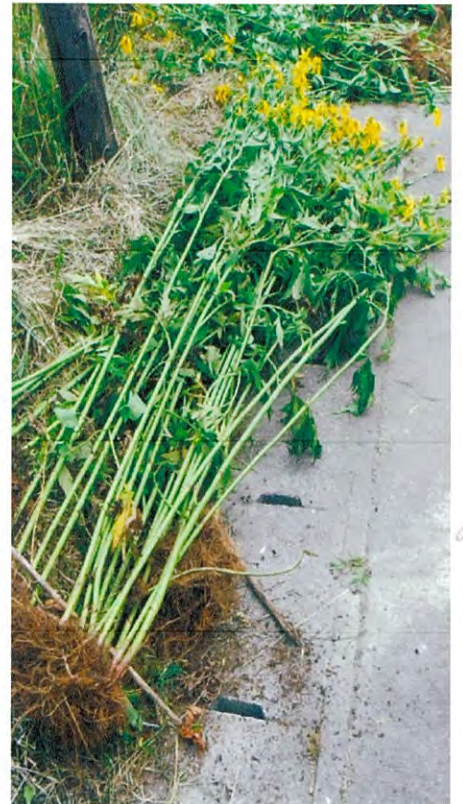
時期にもよるが、刈り払いすると新たに複数本、芽を出して生長するので、一度だけの刈り払いは逆効果で駆除にはつながらない。6月上旬から中旬には茎や葉を十分展葉させ、地下部に蓄えてあった養分を使う、この養分を使い切ったあとに刈り払いしてしまえば、地下部が痩せている状態なので、弱るが、新たにまた芽を出したら、

さらに養分を使いきったあとに刈り払いをすとさらに弱り、年3回は刈り払いすると効果がある。

1回の刈り払いは、その年の花芽は付けない（種子を作らない）で済むが、地下部は大きくなり、刈り払いをしなくなると、やめた年にもものすごい量の花をつけ、たくさん種子散布することになる。初夏や秋の刈り払いは、駆除には効果がなく、無駄である。根株を総て取り除く事が根絶の第一条件。



大きく生長したオオハンゴンソウ・高さ2.5～3m



大きく生長したオオハンゴンソウ・高さ2.5～3m

